

教育会館 40年の歩み

財団法人横須賀三浦教育会館顧問 最上 満



戦後、教職員の自主活動が高まると共にその拠点としての会館建設が念願された。その結果として1963年（昭和38年）当時の横須賀市教職員組合（組合員約1300人、校長・教頭を含む）の組合員全員の募金により市当局の多大の援助を得て、総工費1280万円をもって市内上町1-63に白亜2階建の会館が建設された。当時教育会館は概ね県単位で、大都市を除き市単位の会館はなかった。

翌年民法第34条により主務官庁神奈川県教育委員会の許可を得て、財団法人横須賀教育会館が設立された。なぜ財団法人としたかについては2つの理由がある。その1は教職員が鋭意築き上げた財産を恒久的に保全するためであり、その2は会館を地域の教育センター的な存在とするためであった。

財団法人は公益法人であり、維持運営の主眼は公益事業を行うことにある。公益とは不特定多数の者の利益の実現であり、対象を特定の団体等に限りはならない。引き続き3年間公益事業を行わない法人は休眠法人として監督官庁より設立許可の取消しを受け、公益法人の資格を失って財産の保全が不可能になる。公益事業の種目は寄附行為（定款）で決まっているが具体的にどのような事業を実施するかは最も苦心を要する所であった。

会館の維持運営は年々着実に継続され、1977年（昭和52年）には組織の発展と共に手狭になった会館を拡張するため3階増築が行われ、施設の大々的改修が実施された。爾来20余年改修後の施設も漸く老朽化が顕著となり、益々発展する組織上の問題からも次の増改築が必要となる時期を迎えた。

1992年4月三教組第29回定期大会において会館増改築のための財政が確立されて長期にわたる資金の積立が開始され、これに併せて関係各団体の協力体制が整えられた。

新しい会館のめざす所は3市1町の教育会館である。寄附行為を変更して名称も「横須賀三浦教育会館」とし、それに合わせて役員選出の割当も改められ、新体制が出来上がった。

2000年（平成12年）多年難航した土地購入が実現し、同11月工事入札、翌2001年12月工事完成、2002年1月竣工式の運びとなり、現在の教育会館が誕生した。

新教育会館は敷地面積約1000㎡、鉄筋コンクリート6階建、完備した諸施設を有する壮大なビルである。今や基本財産も土地・建物・預金を合わせて4億8千5百万円となり、財団法人横須賀三浦教育会館の基盤は揺るぎないものとなった。その初めを振り返るとき今日の発展はひとえに各方面の御支援の賜であり衷心より感謝に堪えない。

現代社会の機構の中で公益法人の果たす役割は益々重要となっている。会館今後のさらなる発展を切に祈念する次第である。

2004（平成16）年10月